

シラバス  
(令和4年度)  
作業療法学科  
昼間コース1年生

学校法人 巨樹の会

小倉リハビリテーション学院

# 共生

共に学び 共に歩み 共に進む

私ども小倉リハビリテーション学院は、専門的な知識技術を提供する前に利用者の方々の立場に軸足を置き、思考することを第一義に考える専門家の輩出をめざしております。

本来サービスという言葉の持つ意味は利用者本位でなくてはなりません。特に保健・医療・福祉分野では、安全で個性があり質の高いサービスの提供が相互の信頼を生むものと確信しております。

教職員および学生一同は建学の精神を心に刻み、次世代に残すべき人『人財』の育成をモットーに地域の皆様と「共」に学び・歩み・進むことをお約束いたします。

# 教育目標

- 一 心豊かに分かり合える、理学療法士・作業療法士であること
- 一 信頼される、理学療法士・作業療法士であること
- 一 暮らしを支える、理学療法士・作業療法士であること

# 令和4年度年間予定

## 令和4年度 年間予定

### 理学療法学科・作業療法学科(昼間コース)

	第1学年	第2学年	第3学年
前期	入学式 4月2日(土)	始業 4月1日(金)	始業 4月1日(金)
	オリエンテーション・面談 4月1日(金) ~ 随時	面談 4月4日(月) ~ 随時	講義 4月4日(月) ~ 4月22日(金)
	講義 4月4日(月) ~ 7月15日(金)	講義 4月4日(月) ~ 7月15日(金)	総合臨床実習Ⅲ 4月25日(月) ~ 6月17日(金)
	補講・定期試験期間 7月19日(火) ~ 8月5日(金) 8月8日(月)・9日(火)予備日	補講・定期試験期間 7月19日(火) ~ 8月5日(金) 8月8日(月)・9日(火)予備日	講義 6月20日(月) ~ 7月1日(金)
	夏季休業 8月10日(水) ~ 8月31日(水)	夏季休業 8月10日(水) ~ 8月31日(水)	合同就職説明会 6月29日(水)
	再試験(対象者のみ) 8月25日(木) ~ 8月31日(水)	再試験(対象者のみ) 8月25日(木) ~ 8月31日(水)	総合臨床実習Ⅳ 7月4日(月) ~ 9月9日(金)
	講義 9月1日(木) ~ 12月14日(水)	講義 9月1日(木) ~ 12月14日(水)	
後期	補講・定期試験期間 12月15日(木) ~ 12月28日(水) 1月4日(水) ~ 1月6日(金) 1月10日(火)~12日(木)予備日	補講・定期試験期間 12月15日(木) ~ 12月28日(水) 1月4日(水) ~ 1月6日(金) 1月10日(火)~12日(木)予備日	就職説明会 9月15日(木)予定
	冬季休業 12月29日(木) ~ 1月3日(火)	冬季休業 12月29日(木) ~ 1月3日(火)	講義および国家試験対策 9月12日(月) ~ 2月17日(金)
	再試験期間(対象者のみ) 1月26日(木) ~ 2月3日(金)	再試験期間(対象者のみ) 1月26日(木) ~ 2月3日(金)	第58回 国家試験 2月19日(日)予定
	実習オリエンテーション/ 実習振り返り 1月13日(金)/3月6日(月)	実習オリエンテーション/ 実習振り返り 1月13日(金)/3月6日(月)予定	
	臨床実習Ⅰ 2月6日(月) ~ 3月4日(土)	(PT) 臨床実習Ⅱ、評価演習 2月6日(月) ~ 3月18日(土)	
	春季休業 3月13日(月) ~ 3月31日(金)	春季休業 3月22日(水) ~ 3月31日(金)	卒業式 3月3日(金)
	(OT) 臨床実習Ⅱ-1、臨床実習Ⅱ-2 2月6日(月) ~ 3月18日(土)		

# カリキュラム

2022年度 作業療法学科 昼間コース カリキュラム

分野	教育内容	指導要領	授業科目	1年		2年		3年		時間数	単位数	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	人文科学	心理学	30						30	2	
		自然科学	統計学				30			30	2	
			情報処理				30			30	2	
			物理学	30						30	2	
		コミュニケーション学	基礎教養	30						30	2	
			対人関係演習 I	30						30	2	
対人関係演習 II			30					30	2			
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	解剖学	解剖学 I	30						30	2	
			解剖学 II		30					30	2	
		生理学	生理学 I	30						30	2	
			生理学 II		30					30	2	
		運動学	運動学 I	60						60	4	
			運動学 II		30					30	2	
			運動学演習 I	30						30	2	
			運動学演習 II		30					30	2	
		人間発達学	人間発達学		30					30	2	
		疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	リハビリテーションの 基礎	リハビリテーション基礎医学 I	30						30	2
				リハビリテーション基礎医学 II		30					30	2
			臨床医学総論	医学概論	30						30	2
	病理学概論					30				30	2	
	臨床医学各論		整形外科			30				30	2	
			内科学			30				30	2	
		神経内科学			30				30	2		
		臨床心理学		30					30	2		
	精神医学		30					30	2			
	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	リハビリテーション概 論・医学	リハビリテーションと作業療法 I	30						30	2	
			リハビリテーションと作業療法 II	30						30	2	
	専門分野	基礎作業療法学	基礎作業学	基礎作業学 I	30						30	2
				基礎作業学 II		60					60	2
				基礎作業学 III			30				30	1
				生活機能演習				30			30	1
作業療法管理学		作業療法管理	作業療法管理学					30		30	2	
作業療法評価学		作業療法評価学	基礎評価学演習 I	60						60	2	
			基礎評価学演習 II		60					60	2	
			基礎評価学演習 III			30				30	1	
			基礎評価学演習 IV				30			30	1	
			臨床評価学演習 I	30						30	1	
			臨床評価学演習 II		30					30	1	
作業療法治療学		日常生活活動学	日常生活活動学演習 I		30					30	1	
			日常生活活動学演習 II			30				30	1	
		義肢装具学	義肢学		30					30	1	
			装具学			30				30	1	
		疾患別作業療法学	高齢期の作業療法				30			30	1	
			中枢神経疾患の作業療法学 I			60				60	2	
			中枢神経疾患の作業療法学 II				30			30	1	
			運動器疾患の作業療法学				60			60	2	
			小児疾患の作業療法学			30				30	1	
			内部障害系疾患の作業療法学 I			30				30	1	
			内部障害系疾患の作業療法学 II				30			30	1	
			精神障害の作業療法学 I		60					60	2	
			精神障害の作業療法学 II			60				60	2	
	高次脳機能障害の作業療法学					30			30	1		
	作業療法学技術演習 I				60				60	2		
	作業療法学技術演習 II					60			60	2		
作業療法総合学習	作業療法総合学習	作業療法学総合学習 I					60	60	2			
		作業療法学総合学習 II				60	60	2				
		作業療法学総合学習 III				60	60	2				
地域作業療法学	地域作業療法学	生活環境学				30		30	2			
		地域作業療法学演習				30		30	2			
臨床実習	臨床実習	臨床実習 I		45				45	1			
		臨床実習 II - 1			45			45	1			
		臨床実習 II - 2			90			90	2			
		臨床実習 III				360		360	8			
		臨床実習 IV				450		450	10			
* 基礎分野: 講義15~30時間1単位 * 専門基礎分野: 講義・演習15~30時間1単位 実習30~45時間1単位 * 専門分野: 同上 * 臨床実習: 40~45時間1単位	基礎分野	120	30	0	60	0	0	210	14			
	専門基礎分野	270	240	120	0	0	0	630	42			
	専門分野	120	210	360	420	30	180	1320	48			
	実習	0	45	0	135	810	0	990	22			
	前期・後期小計	510	525	480	615	840	180	3150	126			
	前後期合計	1035	1095	1020								

# シラバス



# I . 基礎分野

講義科目	心理学		
担当講師	都能 美智代		授業時間数 30
開講年次	昼間コース	作業療法学科 1年前期	単位数 2
教育目標	①対人援助職に必要な人間の行動科学の基本原則を学び、対象者理解の基礎を身につける。 ②リハビリテーション治療過程に関わる学習理論、動機づけを理解する。		
No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	医療行動科学の基本概念 ①医療の行動科学とは何か	①心理学とは何かを理解する。 ②医療と心理学の関係を理解する。 ③心理学の歴史と現代の医療行動科学の位置づけを理解する。	
2	医療行動科学の基本概念 ②心のモデル	①フロイトの心的力動理論の概要を理解する。 ②人間の適応の概要を理解する。 ③人間情報処理モデルとしての認知科学・神経科学の概要を理解する。	
3	行動科学の基本法則 ①学習の理論	①古典的条件づけの役割、誘因と動因を理解する。 ②道具的条件づけを理解する。 ③認知学習について理解する。	
4	行動科学の基本法則 ②記憶の構造とはたらき	①記憶の区分と働きを理解する。 ②記憶の分類を理解する。 ③パベツ回路と記憶障害を理解する。	
5	行動科学の基本法則 ③知覚の様式	①知覚と感覚を理解する。 ②視覚の概要を理解する。 ③聴覚の概要を理解する。	
6	行動科学の基本法則 ④感情	①情動とは何かを理解する。 ②感情の機能を理解する。 ③記憶と感情の関係を理解する。	
7	行動科学の基本法則 ⑤動機と覚醒水準	①動機づけの役割、誘因と動因を理解する。 ②動機づけの種類を理解する。 ③欲求と葛藤、不満行動を理解する。	
8	行動科学の基本法則 ⑥社会心理学	①社会的認知を理解する。 ②自己と他者を理解する。 ③社会化と社会的影響を理解する。	
9	行動科学の基本法則 ⑦ストレスのメカニズム	①ストレスとは何かを理解する。 ②ストレスによる生理学的変化を理解する。 ③ストレスコーピングと自立訓練法を知る。	
10	行動科学的介入の基礎知識 ①パーソナリティ	①パーソナリティの形成を理解する。 ②パーソナリティと病気の関係(パーソナリティ理論)を知る。 ③パーソナリティ測定(バウムテスト)を知る。	
11	行動科学的介入の基礎知識 ②知性と感性	①知能の定義を理解する。 ②知能検査方法を知る。 ③知能の発達と障害を知る。	
12	行動科学的介入の基礎知識 ③心の発達と危機	①発達の概要を理解する。 ②エリクソンのライフサイクル論を理解する。	
13	行動科学的介入の基礎知識 ④心の発達と危機	①ピアジェの発達段階を理解する。 ②中年期以降の心理的变化を理解する。	
14	行動科学的介入の基礎知識 ⑤心理学的介入	①精神分析法(内容と人名) ②行動療法(行動療法の理論) ③カウンセリング(来談者中心療法)	
15	まとめ	理解度に合わせて補足を行う。	
教科書	書籍名		著者
	医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー		山田 富美雄
参考図書等			出版社
			北大路書房
授業方法	講義形式 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	心理学は国家試験に出題される重要な科目であり、理学療法士、作業療法士にとって対象者理解にとって必要不可欠な科目であり、記憶学習ではなく人の行動の成り立ちを興味を持ち学習して下さい。		

講義科目	物理学		
担当講師	川岡 有輔		授業時間数 30
開講年次	昼間コース	作業療法学科 1年前期	単位数 2
教育目標	①人体の運動と物理法則の関係を理解し、科学的な見方を身につける。 ②リハビリテーション臨床場面における科学的思考の基礎を身につける。		
No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	医療行動科学の基本概念 ①医療の行動科学とは何か	①基本単位と組立単位 ②理学療法・作業療法と物理学	
2	物理量とその表し方(1)	①物理量 ②ベクトル量とスカラー量	
3	物理量とその表し方(2)	①大きい数、小さい数の表し方 ②指数の計算 ③有効数字とその計算	
4	物理学で使うグラフと関数(1)	①数式とグラフ ②三角関数(1)	
5	物理学で使うグラフと関数(2)	①三角関数(2) ②ベクトルの計算	
6	いろいろな運動(1)	①位置と変位 ②速度、加速度 ③等速直線運動	
7	いろいろな運動(2)	①等加速度直線運動 ②自由落下、鉛直投げ上げ ③水平投射	
8	さまざまな力(1)	①力とは、力の単位 ②重力 ③張力	
9	さまざまな力(2)	①垂直抗力 ②摩擦力 ③弾性力、圧力	
10	力のつり合いと運動の法則(1)	①力の合成と力のつり合い ②慣性の法則(ニュートンの第1法則) ③遠心力	
11	力のつり合いと運動の法則(2)	①運動方程式(ニュートンの第2法則) ②作用反作用の法則(ニュートンの第3法則)	
12	物体の重心と回転運動(1)	①剛体の回転運動 ②力のモーメントのつり合い ③重心と重心の求め方	
13	物体の重心と回転運動(2)	①剛体の運動と剛体にはたらく力 ②力のモーメントと3つのてこ	
14	運動量、仕事とエネルギー(1)	①運動量と力積 ②仕事と仕事率 ③運動エネルギー	
15	運動量、仕事とエネルギー(2)	①位置エネルギー ②力学的エネルギー保存の法則	
教科書	書籍名		著者
	PT・OTゼロからの物理学		望月久・棚橋信雄
参考図書等			出版社
			羊土社
授業方法	テキストを中心に講義を行う。練習問題などの演習を適宜取り入れる。必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	運動学履修における必要な知識であるとともに、国家試験に出題される部分を中心に講義を行うため、ただ憶えるのではなく理解をすること。		

講義科目	基礎教養		
担当講師	篠崎 康次		授業時間数 30
開講年次	昼間コース	作業療法学科 1年後期	単位数 2
教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を書く上で基本となる語彙と文法を理解する。</li> <li>文章の基本となる文章構成について理解し、説得力のある論理的な文章表現力を身につける。</li> <li>文章表現だけではなく、日常会話でも必要となる敬語表現を身につける。</li> </ul>		
No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	医療行動科学の基本概念 ①医療の行動科学とは何か	①表現に関する導入問題を解き、解説を行なう。 ②250字程度の課題文を書かせ、学生の表現力を確認する。 ③講義目標及び予定についての説明を行う。	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>語句の意味と用法について</li> <li>文章の構成について</li> <li>二段構成の意見文の作成</li> </ul>	①語句の意味・正しい使い方を理解する。 ②文章の構成について、前回作成した課題文の問題点を踏まえ理解する。 ③二段構成意見文の説明と300字程度の意見文を作成する。	
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>語句の意味と用法について</li> <li>二段構成の意見文の事実について確認する。</li> </ul>	①語句の意味・使い方、接続関係について理解する。 ②意見を支える事実ということについて理解する。前回書いた課題文の事実を参考にして、意見を支える事実ということを確認する。	
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>文法的な正しさについて</li> <li>二段構成の意見文の作成</li> </ul>	①文法的に正しい語句の使い方を理解する。 ②文章作成の前に、再度二段構成意見文について確認する。 ③300字程度の二段構成意見文を作成する。	
5	・通信文の書き方(その1)	①通信文(縦書き)の基本の型を理解する。 ②通信文の約束事を確認する。(構成、頭語と結語、時候の挨拶等) ③前回作成の二段構成意見文の問題点を確認する。	
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>文法的な正しさについて</li> <li>三段構成の意見文について</li> </ul>	①文法的に正しい表現、わかりやすい表現について理解する。 ②三段構成意見文の構成について説明する。 ③400字程度の三段構成意見文を作成する。	
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>分かりやすい表現について</li> <li>三段構成意見文の理由について</li> </ul>	①分かりやすい表現、適切な表記について理解する。 ②三段構成意見文の理由の述べ方について理解する。 ③前回作成の三段構成意見文の問題点を確認する。	
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>敬語表現について</li> <li>三段構成意見文の作成</li> </ul>	①敬語の基本について理解する。 ②400字程度の三段構成意見文を作成する。	
9	・通信文の書き方(その2)	①通信文(記書き)の基本型について理解する。 ②前回作成の三段構成意見文の問題点を確認する。	
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>敬語表現について</li> <li>文章表現(文法事項)について</li> <li>三段構成の文章作成</li> </ul>	①問題演習を通して、敬語表現の理解を深める。 ②問題演習を通して、文の構造、文の種類、助詞について理解する。 ③400字程度の三段構成意見文を作成する。	
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>敬語表現について</li> <li>文章表現(文法事項)について</li> <li>文章の書き方(四段構成)</li> </ul>	①問題演習を通して、敬語表現の理解を深める。 ②問題演習を通して、文の作成、文の書き換えについて理解する。 ③四段構成論説文の書き方を理解する。前回作成文章の問題点を確認する。	
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>敬語表現について</li> <li>文章表現(文法事項)について</li> <li>四段構成の文章作成</li> </ul>	①問題演習を通して、敬語表現の理解を深める。 ②問題演習を通して、文の変形、重複表現、副詞呼応等について理解する。 ③500字程度の四段構成論説文を作成する。	
13	・通信文の書き方(その3)	①縦書き通信文と比較しながら、横書き通信文の基本型を理解する。 ②前回作成の四段構成論説文の問題点を確認する。	
14	<ul style="list-style-type: none"> <li>敬語表現について</li> <li>文章表現(文法事項)について</li> <li>四段構成の文章作成</li> </ul>	①問題演習を通して、敬語表現の理解を深める。 ②問題演習を通して、句読点の打ち方、文の結合等について理解する。 ③500字程度の四段構成論説文を作成する。	
15	<ul style="list-style-type: none"> <li>敬語表現について</li> <li>文章表現(文法事項)について</li> <li>文章作成について</li> </ul>	①問題演習を通して、敬語表現の理解を深める。 ②問題演習を通して、文章の要約について理解する。 ③前回作成の四段構成論説文の問題点を確認する。	
教科書	書籍名		著者
	文章検 公式テキスト 3級 基礎から学べる！文章カステップ 文章検3級対応 講義用に作成した補助テキスト		公益財団法人日本漢字能力検定協会 公益財団法人日本漢字能力検定協会
参考図書等			出版社 公益財団法人日本漢字能力検定協会 公益財団法人日本漢字能力検定協会
授業方法	講義形式・演習形式 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験、小テスト、作成文書により評価する。
履修上の注意	文章が上手くなるには繰り返し書くことですが、ただ繰り返し書けばよいではありません。そこで、講義では必要な知識の学習と並行して段階的に文章を書いていきますので、しっかり取り組んで文章を書けるようになりましょう。		

講義科目	対人関係演習 I					
担当講師	二階堂 晴江			授業時間数	30	
開講年次	屋間コース	作業療法学科 1年前期	実務経験	精神科・高齢者施設にて実務経験あり	単位数	2
教育目標	①医療専門職に対する社会的要請を学び、医療人としての守るべき倫理を理解する。 ②自己と他者、様々な人間関係の在り方を学ぶ。 ③人間関係における他者理解のためのコミュニケーション技法を経験し、自己課題を認識する。					
No.	講義計画	行動目標(学習目標)				
1	倫理とは何か	①倫理は人間関係の在り方についての社会的要請であることを理解する。 ②倫理と道徳及び法の関係を理解する。 ③社会的要請に応じる倫理的に適切な行動選択の構造を理解する。				
2	医療専門職の倫理原則	①医療専門職の基礎となる「誠実」「忠誠」を理解する。 ②医療・医療研究における倫理の4原則を理解する。				
3	自己過程①	①他者を理解する(社会的認知)。自己と他者。				
4	自己過程②	①集団の中の個人 ②集団における人間関係(職場を中心に)				
5	対人認知	①人の印象を捉えるメカニズム ②人間関係を認知するメカニズム				
6	コミュニケーション技法①	①みること、きくことの技法を学ぶ。 ②傾聴と共感的理解の技法を学ぶ。 ③人間関係における共感・思いやりの重要性を理解する。				
7	コミュニケーション技法②	①自己を表現する。 ②意図を明確に伝える。				
8	人間関係①	①障がい者の家族関係(グループディスカッション) ②事例を提示してグループディスカッションを実施する。				
9	人間関係②	①セラピストと対象者の関係(グループディスカッション) ②事例を提示してグループディスカッションを実施する。				
10	対人ストレスとソーシャルサポート	①ストレスとは何かを理解する。 ②人間関係の支え合いを理解する。				
11	コミュニケーション実習諸注意	①実習施設の社会的役割を知り、施設におけるルール、マナーを理解する。 ②実習施設における対象者の特徴を理解する。 ③実習における傾聴及び共感課題を理解する。				
12	施設実習 I-①	高齢者デイサービス施設におけるコミュニケーション実習を行い、対象者の話を傾聴しかつ対象者を共感的に理解する経験を行う。				
13	施設実習 I-②	高齢者デイサービス施設におけるコミュニケーション実習を行い、対象者の話を傾聴しかつ対象者を共感的に理解する経験を行う。				
14	施設実習 I-③	高齢者デイサービス施設におけるコミュニケーション実習を行い、対象者の話を傾聴しかつ対象者を共感的に理解する経験を行う。				
15	振り返りセミナー	①グループディスカッションを行い施設実習の体験を共有する。 ②体験を通じ傾聴及び共感的理解に必要な技術は何か話し合う。 ③対人関係における自己課題を確認する。				
教科書	書籍名		著者		出版社	
	ケア・コミュニケーション		松田 美幸		ウイネット	
参考図書等	患者さんがみるみる元気になる リハビリ現場の会話術		矢口拓宇		秀和システム	
授業方法	グループディスカッションを中心に適宜講義を交える。必要に応じて遠隔授業を実施する。		成績評価方法	レポート(5割) 施設実習の評価(5割)		
履修上の注意	対人職としての基礎を学びます。講義で学んだ内容を基に施設演習で実践していきます。普段の生活から対人援助には何が必要であるかを考えながら、行動をしていきましょう。					

講義科目	対人関係演習Ⅱ		
担当講師	栢島 真理		授業時間数 30
開講年次	屋間コース	作業療法学科 1年後期	実務経験 一般病院(身体障害分野)での実務経験あり。 単位数 2
教育目標	実際に社会での直接的体験を通して、優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。フィールドワークを通じてコミュニケーションスキルの実践を行い、自己課題を認識する。 対象者を尊重し、共感的態度をもって、より良い・善い人間関係を構築できる。		
No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	オリエンテーション	①科目概要及び目的を理解する。 ②対人援助職に必要なコミュニケーションの基礎を復習する。	
2	ボランティア活動について	ボランティア活動の意義について理解することが出来る	
3	情報収集	フィールドワーク内容について情報収集を行い、課題を選択できる	
4	フィールドワーク企画①	自らが選択した課題について計画立案が出来る	
5	フィールドワーク企画②	自らが選択した課題について計画を発表することが出来る	
6	フィールドワークの実践①	現地研修	
7	フィールドワークの実践②	現地研修	
8	フィールドワークの実践③	現地研修	
9	フィールドワークの実践④	現地研修	
10	発表と相互評価	課題内を振り返ることが出来る 各自の取り組み内容について発表を行う	
11	発表と相互評価	課題内を振り返ることが出来る 各自の取り組み内容について発表を行う	
12	課題の振り返り	事後報告としてレポート作成をすることが出来る	
13	人間関係について	人間関係について自らの考えをまとめることが出来る	
14	患者との人間関係について	患者との人間関係についてグループで話し合うことが出来る	
15	地域における人間関係	地域における人間関係についてグループ発表をすることが出来る	
教科書	書籍名	著者	出版社
	特に指定しない		
参考図書等	特に指定しない		
授業方法	グループワーク、フィールドワーク。必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	提出物、課題への取り組み状況を総合的に評価する。
履修上の注意	対人関係演習Ⅰで学んだことをふまえ、適切なコミュニケーションや態度で対象者に関わることができるよう常に自己洞察を行っていくこと。また、普段の学内生活から身だしなみや態度に気をつけて行動をしていくこと。		

## II. 專門基礎分野

講義科目	解剖学 I		
担当講師	小林 繁		授業時間数 30
開講年次	昼間コース	作業療法学科 1年前期	単位数 2
教育目標	正常な人体の動物機能に関わる骨・筋および末梢神経系の形態と構造を理解する。 循環器系の構造を理解する。		
No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	総論、組織	①人体の概要と解剖学的用語を理解する。 ②人体を構成する細胞・組織・器官の概要を理解する。 ③人体の発生の概要を理解する。	
2	骨学(関節靭帯を含む) 骨学総論、関節靭帯総論	①骨の形態・構造および骨の血管と神経について理解する。 ②骨の機能と発生を理解する。 ③骨の連結と関節の構造と機能を理解する。	
3	骨学(関節靭帯を含む) 頭蓋	①頭蓋の構成及び頭蓋を構成する個々の骨を理解する。 ②頭蓋腔と外部の交通を理解する。 ③頭蓋の連結:縫合と顎関節を理解する。	
4	骨学(関節靭帯を含む) 脊柱、胸郭	①脊柱の外観及び椎骨基本的形態及び特徴を理解する。 ②胸郭の外観及び胸郭を構成する骨を理解する。 ③脊柱、脊柱と頭蓋及び胸郭の連結を理解する。	
5	骨学(関節靭帯を含む) 上肢	①上肢帯および自由上肢骨に含まれる骨を理解する。 ②上肢帯および自由上肢骨、手の連結を理解する。	
6	骨学(関節靭帯を含む) 下肢	①下肢帯および骨盤、自由下肢骨を理解する。 ②下肢帯および骨盤、自由下肢骨の連結を理解する。	
7	筋学:筋学総論	①筋組織の種類と特徴および骨格筋の構造を理解する。 ②骨格筋の作用を理解する。 ③骨格筋の神経支配を理解する。	
8	筋学:上肢の筋①	①上肢帯の筋の起始停止走行作用を理解する。 ②上腕の筋の起始停止走行作用を理解する。	
9	筋学:上肢の筋②	①前腕の筋の起始停止走行作用を理解する。 ②手内筋群の起始停止走行作用を理解する。	
10	筋学:下肢の筋①	①下肢帯の筋の起始停止走行作用、殿部深層の血管・神経を理解する。 ②大腿の筋の起始・停止・走行・作用を理解する。 ③大腿(断面)の大腿筋間隔および血管・神経の位置を理解する。	
11	筋学:下肢の筋②	①下腿の筋の起始停止走行作用を理解する。 ②足の筋の起始停止走行作用を理解する。	
12	筋学:顔面・体幹の筋	①頭部の筋(表情筋・咀嚼筋群・頸部の筋)の起始停止作用を理解する。 ②胸部・腹部・背部の筋の起始停止作用を理解する。	
13	循環器系①	①血管の構造と役割を理解する。 ②心臓の位置・構造・役割を理解する。	
14	循環器系②	①大循環と小循環の違いと役割を理解する。 ②動脈系の経路を理解する。※代表的な動脈を覚える。	
15	循環器系③	①静脈系(門脈系を含む)の構造と機能を理解する。 ②リンパ系の構造と機能を理解する。	
教科書	書籍名		著者
	標準理学療法学・作業療法学 解剖学		野村 巖 編
参考図書等	人体解剖アトラス		佐藤 達夫 訳
	消して忘れない解剖学要点整理ノート		井上 馨 編
授業方法	講義形式		成績評価方法
	必要に応じて遠隔授業を実施する		
履修上の注意	定期試験		
履修上の注意	人間の運動機能を理解する基盤となる重要な科目で国家試験出題数も多い。PT・OTに必須な知識であり、丸暗記ではなく自らの運動と関わらせながら興味を持ち、且つ繰り返し学習するよう心がけて下さい。		



講義科目	解剖学Ⅱ		
担当講師	小林 繁		授業時間数 30
開講年次	昼間コース	作業療法学科 1年後期	単位数 2
教育目標	①正常な人体の動物的機能特に神経系の形態・構造を理解する。 ②正常な人体における植物系機能(呼吸・代謝・成長など)ならびに意識的感覚や精神機能に関わる形態・構造を理解する。		
No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	内臓学総論	①人体の発生を理解する。 ②まとめ	
2	内臓学①	①内臓器官の全体構造を理解する。 ②消化器系の内臓を理解する。 ③消化管の基本構造と附属腺の構造と機能を理解する。	
3	内臓学②	①呼吸器系を構成する器官を理解する。 ②気管と気管支、肺の構造を理解する。	
4	内臓学③	①泌尿器系を構成する器官を理解する。 ②腎臓・尿管・膀胱の構造を理解する。 ③生殖器系、内分泌系の構造を理解する。	
5	神経系総論①	①神経系の区分を理解する。 ②神経系の構造を理解する。	
6	神経系総論②	①髄膜と脳室を理解する。 ②神経系の発生を理解する。	
7	中枢神経系①	①大脳皮質の構造と機能局在を理解する。 ②大脳基底核の構造と役割を理解する。 ③間脳の構造と役割を理解する。	
8	中枢神経系②	①脳幹の外形を理解する。 ②脳幹の断面(神経路と脳神経核)を理解する。	
9	中枢神経系③	①小脳の外形と区分を理解する。 ②小脳脚の位置と役割を理解する。 ③小脳の内部構造について理解する。	
10	中枢神経系④	①脊髄の外形を理解する。 ②脊髄の断面(灰白質と白質の違い)を理解する。 ③脊髄の神経路を理解する。	
11	中枢神経系⑤	①上行性伝導路(体性感覚、視覚、聴覚)を理解する。 ②下行性伝導路(錐体路、錐体外路)を理解する。	
12	末梢神経系①	①脊髄と脊髄神経の関係を理解する。 ②神経叢と神経の名称及び走行を理解する。	
13	末梢神経系②	①脳神経の機能と経路を理解する。 ②自律神経の機能と経路を理解する。	
14	感覚器系	①皮膚構造を理解する。 ②特殊感覚(特に視覚、聴覚)の構造と役割を理解する。	
15	まとめ	理解度に合わせて補足を行う。	
教科書	書籍名	著者	出版社
	標準理学療法学・作業療法学 解剖学	野村 巖 編	医学書院
参考図書等	Qシリーズ 新解剖学 図解解剖学辞典 人体解剖カラーアトラス 消して忘れない解剖学要点整理ノート	加藤 征 監修 山田 英知 監修 佐藤 達夫 訳 井上 馨 編	日本医事新法社 医学書院 南江堂 羊土社
授業方法	講義形式 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	人間の運動機能を理解する基盤となる重要な科目で国家試験出題数も多い。PT・OTに必須な知識であり、丸暗記ではなく自らの運動と関わらせながら興味を持ち、且つ繰り返し学習するよう心がけて下さい。		

講義科目	生理学 I		
担当講師	川村 越		授業時間数 30
開講年次	昼間コース	作業療法学科 1年前期	単位数 2
教育目標	生理学の基礎である細胞生理について理解したうえで、ヒトの生理学的(植物)機能を理解する。		
No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	生理学の基礎 I 細胞膜	①細胞の構造:核と細胞小器官の役割 ②細胞膜の構造と機能	
2	生理学の基礎 II 物質輸送	①チャンネルトランスポーター ②能動輸送 ③サイトシス	
3	生理学の基礎 III エネルギー生成	①ATPと解糖系 ②酸化的リン酸化 ③ミトコンドリア	
4	消化と吸収 I	①咀嚼と嚥下 ②蠕動運動 ③胃液・膵液・肝臓・膵臓、胆のうの働き	
5	消化と吸収 II	①吸収性上皮細胞 ②膜消化 ③排便反射	
6	消化と吸収 III	①糖質・蛋白質・脂質の消化と吸収 ②消化管ホルモン	
7	まとめ	理解度に合わせて補足説明を行う。	
8	呼吸と血液 I	①内呼吸と外呼吸 ②呼吸運動 ③スパイログラム	
9	呼吸と血液 II	①血液ガスの交換と運搬 ②酸素解離曲線 ③呼吸中枢	
10	呼吸と血液 III	①血液の成分と血球の機能 ②血液凝固 ③血液型	
11	血液の循環 I	①固有心筋 ②特殊心筋 ③刺激伝導系	
12	血液の循環 II	①心電図 ②心周期 ③前負荷と後負荷	
13	血液の循環 III	①収縮期血圧と拡張期血圧 ②減圧(昇圧)反射 ③レニンアンギオテンシン系	
14	血液の循環 IV	①微小循環 ②胎児循環 ③浮腫とリンパ系	
15	まとめ	理解度に合わせて補足説明を行う。	
教科書	書籍名		著者
	系統看護学講座 解剖生理学		坂井建雄・岡田隆夫 著
参考図書等	出版者		出版社
	図解ワンポイントシリーズ 生理学 人体の構造と機能 カラー図解 よくわかる生理学の基礎 消して忘れない生理学要点整理ノート		医学書院
授業方法	成績評価方法		著者
	講義形式 必要に応じて遠隔授業を実施する		片野 由美 佐久間 康夫 佐々木 誠一 編集
履修上の注意	定期試験		出版者
	疾病の成り立ちを理解するために重要な基礎知識であり国家試験出題数も多い科目である。毎回の授業内容をしっかり理解するため、積極的に質問をしたり学生相互で教え合うなど主体的学習に努めること。		医学芸術社 メディカル・サイエンス 羊土社

講義科目	生理学Ⅱ		
担当講師	川村 越		授業時間数 30
開講年次	昼間コース	作業療法学科 1年後期	単位数 2
教育目標	ヒトの動物性機能を理解する。		
No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	体液の調節と尿Ⅰ	①ネフロン ②濾過と再吸収 ③バソプレッシンとアルドステロン ④クリアランス	
2	体液の調節と尿Ⅱ	①水の出納・脱水 ②電解質異常:酸-塩基バランス ③排尿	
3	神経系の基礎	①ニューロン ②静止電位と活動電位 ③伝導と伝達 ④EPSP・IPSP	
4	内臓機能の調節Ⅰ	①自律神経 ②交感神経 ③副交感神経	
5	内臓機能の調節Ⅱ	①内分泌 ②傍分泌 ③受容体 ④セカンドメッセンジャー	
6	内臓機能の調節Ⅲ	①下垂体・甲状腺 ②膵臓・副腎 ③神経内分泌	
7	まとめ	理解度に合わせて補足説明を行う。	
8	体の支持と運動	①サルコメア ②ミオシンとアクチン ③興奮収縮連関 ④クレアチリン酸	
9	情報の受容と処理Ⅰ	①中枢神経 ②脳 ③脊髄	
10	情報の受容と処理Ⅱ	①脳神経 ②脊髄神経 ③伝導路	
11	情報の受容と処理Ⅲ	①脳波と睡眠 ②記憶 ③情動	
12	情報の受容と処理Ⅳ	①視覚 ②杆体と錐体 ③眼球運動	
13	情報の受容と処理Ⅴ	①聴覚・平衡覚 ②味覚 ③嗅覚	
14	外部環境からの防御	①非特異的防衛機構 ②免疫 ③体温	
15	まとめ	理解度に合わせて補足説明を行う。	
教科書	書籍名		著者
	系統看護学講座 解剖生理学		坂井建雄・岡田隆夫 著
参考図書等	図解ワンポイントシリーズ 生理学 人体の構造と機能 カラー図解 よくわかる生理学の基礎 消して忘れない生理学要点整理ノート		片野 由美 佐久間 康夫 佐々木 誠一 編集
			医学芸術社 メディカル・サイエンス 羊土社
授業方法	講義形式 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	疾病の成り立ちを理解するために重要な基礎知識であり国家試験出題数も多い科目である。毎回の授業内容をしっかり理解するため、積極的に質問をしたり学生相互で教え合うなど主体的学習に努めること。		

講義科目		運動学 I					
担当講師		亀田 秀一 桑原 健志		授業時間数	60		
開講年次	昼間コース 作業療法学科 1年前期	実務経験	身体障害者領域の病院・高齢者施設・在宅領域での実務経験あり	単位数	4		
教育目標		身体の構造(骨・関節・靭帯・筋・神経)と身体の姿勢保持・運動との関係を理解する。 上肢の骨・関節・靭帯・筋の構造と実際の運動との関わりを理解する。 脊柱・胸郭の構造と運動との関わり合いを理解する。					
No.	講義計画	行動目標(学習目標)		No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	運動機能学総論 身体運動の面と軸	総論 身体運動の面と軸を理解する		16	筋・筋と神経まとめ	学習の習熟度に合わせ補足	
2	身体運動の面と軸 まとめ	運動方向を理解する 学習の習熟度に合わせ補足		17	上肢帯と肩関節の構造と運動①	肩に関する各関節の構造と関節運動を理解する 靭帯の走行と運動制限を理解する	
3	骨の分類と構成	骨の基本構造・骨の成長について理解する。 骨の分類について理解する。		18	上肢帯と肩関節の構造と運動②	肩に関する各関節の構造と関節運動を理解する	
4	骨の連結と分類	骨の連結種類を理解できる		19	上肢帯と肩関節の構造と運動③	肩関節安定化機構(関節唇・回旋腱板)を理解する	
5	滑膜関節の形状と分類	滑膜関節の基本構造(形状と分類・軸・代表的な関節の観察)を理解する		20	上肢帯と肩関節の構造と運動④	肩甲上腕リズム 上腕二頭筋長頭と肩関節を理解する	
6	骨・関節まとめ	学習の習熟度に合わせ補足		21	肘関節と前腕の構造と運動①	肘関節を構成する骨と関節(腕尺関節・腕橈関節・上橈尺関節・下橈尺関節)を理解する	
7	筋の構造と分類①	筋の分類を理解する 骨格筋の基本構造を理解する		22	肘関節と前腕の構造と運動②	生理的外反肘・ヒューター線(三角)を理解する 前腕骨間膜について理解する	
8	筋の構造と分類②	骨格筋の種類別特性を理解する 筋収縮のメカニズムを理解する		23	肘関節と前腕の構造と運動③	上腕二頭筋、腕橈骨筋、上腕三頭筋3つのでこの関係性について理解する	
9	筋収縮について①	筋収縮のメカニズムを理解する 筋収縮の分類を理解する		24	手関節と手の構造と運動①	手関節を構成する骨と手の骨を理解する 手関節の構造と関節運動を理解する 手のアーチを理解する	
10	筋収縮について②	筋張力を理解する		25	手関節と手の構造と運動②	手根中手関節から指骨間関節を構成する骨と手の骨及び関節運動の理解 屈筋腱と伸筋腱を理解する	
11	神経系の構造と機能①	神経の基本構造を理解する 脊髄の基本構造を理解する		26	手関節と手の構造と運動③	手内在筋と外在筋を理解する 手の機能的肢位の構造を理解する 手の変形の種類を知る	
12	神経系の構造と機能②	神経線維の分類を理解する 錐体路を理解する		27	各関節と運動まとめ	学習の習熟度に合わせ補足	
13	筋と神経①	筋紡錘・伸張反射を理解する		28	脊柱・体幹の構造と運動①	脊柱の基本構造と運動について理解する 椎間円板の構造と機能について理解する	
14	筋と神経②	$\alpha$ - $\gamma$ 連関を理解する 腱紡錘・Ib抑制を理解する		29	脊柱・体幹の構造と運動②	頸椎の構造と運動について理解する 胸椎・胸郭・腰椎の構造と運動について理解する	
15	筋と神経③	運動単位を理解する 筋の機能・形態的变化を理解する		30	振り返り	学習の習熟度に合わせ補足	
教科書	書籍名			著者		出版社	
	基礎運動学 標準理学療法学・作業療法学 解剖学			中村隆一他 野村 巖 編		医歯薬出版 医学書院	
参考図書等	プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系			坂井 建雄・松村 譲児 監訳		医学書院	
授業方法	講義形式。 必要に応じて遠隔授業を実施する。			成績評価方法	定期試験にて評価する。		
履修上の注意	人間の運動機能を理解する重要な科目で国家試験出題数も多い。PT・OTに必須な知識であり、丸暗記ではなく自らの運動と関わらせながら興味を持ち、且つ繰り返し学習するよう心がけて下さい。						

講義科目	運動学Ⅱ					
担当講師	柁島 真理			授業時間数	30	
開講年次	昼間コース	作業療法学科 1年後期	実務経験	一般病院(身体障害分野)での実務経験あり	単位数	2
教育目標	下肢の骨・関節・靭帯・筋の構造と実際の運動との関わりを理解する。 脊柱・胸郭の構造と運動との関わり合いを理解する。 姿勢保持機構と正常歩行について理解する。					
No.	講義計画	行動目標(学習目標)				
1	脊柱・体幹の構造と運動③	呼吸運動と呼吸筋について理解する 腰椎の構造と運動について理解する				
2	脊柱・体幹の構造と運動④	脊柱の動筋について理解する 表情筋・咀嚼筋について理解する				
3	下肢帯と股関節の構造と運動①	仙腸関節を構成する骨と関節を理解する 股関節を構成する骨と関節を理解する				
4	下肢帯と股関節の構造と運動②	靭帯の走行と運動制限を理解する				
5	下肢帯と股関節の構造と運動③	股関節の動筋について理解する				
6	膝関節の構造と運動①	膝関節を構成する骨と関節を理解する 半月板の構造と機能について理解する				
7	膝関節の構造と運動②	靭帯の走行と運動制限を理解する 関節運動(転がり・滑り)終末強制回旋運動について理解する 膝関節の動筋について理解する				
8	足関節の構造と運動③	足関節を構成する骨と足の骨を理解する 足関節の構造と関節運動を理解する				
9	足関節の構造と運動④	靭帯の走行と運動制限を理解する 足関節の動筋について理解する				
10	姿勢	重心と支持基底面,安定性に影響する要因について理解する 安静立位姿勢における重心線について理解する 抗重力筋とその働きについて理解する				
11	活動に関わる身体機能と構造①	歩行周期と基本的用語について理解する 正常歩行における重心移動について理解する				
12	活動に関わる身体機能と構造②	正常歩行における床反力について理解する				
13	活動に関わる身体機能と構造③	正常歩行における下肢関節の角度変化と筋活動について理解する				
14	活動に関わる身体機能と構造④	効率の良い歩行を生み出すための要素について理解する 正常歩行における上肢帯の運動とその役割について理解する				
15	運動学習	運動学習を理解する フィードバックについて理解する 練習の種類について理解する				
教科書	書籍名		著者		出版社	
	基礎運動学 標準理学療法学・作業療法学 解剖学		中村隆一他 野村 巖 編		医歯薬出版 医学書院	
参考図書等	プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系		坂井 建雄・松村 譲児 監訳		医学書院	
授業方法	講義形式。 必要に応じて遠隔授業を実施する。		成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	人間の運動機能を理解する重要な科目で国家試験出題数も多い。PT・OTに必須な知識であり、丸暗記ではなく自らの運動と関わらせながら興味を持ち、且つ繰り返し学習するよう心がけて下さい。					

講義科目	運動学演習 I		
担当講師	桑原 健志		授業時間数 30
開講年次	昼間コース	作業療法学科 1年前期	実務経験 身体障害者領域の病院・高齢者施設・在宅領域での実務経験あり 単位数 2
教育目標	人体の関節構造と運動の力源である筋肉について、知識を深めて人体の動きを3次元で考えられる基礎を作る。また、神経の走行・筋の支配神経について理解する。		
No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	概論(オリエンテーション) 骨の分類と構成	骨の基本構造・骨の成長について理解する。 骨の分類について理解する。	
2	筋の機能と形態的变化	動筋・拮抗筋・固定筋・安定筋について理解する。 筋の肥大や萎縮等の形態的变化について理解する。	
3	上肢上部総論	肩甲骨・上腕骨の骨指標を理解する。	
4	肩甲骨周囲の筋①	肩甲骨周囲の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。	
5	肩甲骨周囲の筋②	肩甲骨周囲の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。	
6	肩甲骨周囲の筋③	肩甲骨周囲の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。	
7	肩関節の筋①	肩関節の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。	
8	肩関節と肘関節の筋①	肩関節・肘関節の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。	
9	上肢下部総論	橈骨・尺骨・手根骨の骨指標を理解する。	
10	前腕の屈筋①	前腕の屈筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。	
11	前腕の屈筋②	前腕の屈筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。	
12	前腕の伸筋①	前腕の伸筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。	
13	前腕の伸筋②	前腕の伸筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。	
14	手内在筋・手外在筋	手内在筋・手外在筋について、作用を理解する。 必要な骨指標を確認する。	
15	上肢筋の支配神経	神経の走行とその支配筋について理解する。	
教科書	書籍名		著者
	標準理学療法学・作業療法学 解剖学 基礎運動学		野村 巖 編 中村 隆一
参考 図書等	プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系 運動療法のための機能解剖学的触診技術(上肢) 運動療法のための機能解剖学的触診技術(下肢・体幹)		坂井 建雄・村松 譲児 青木 隆明 青木 隆明
			医学書院 メジカルビュー社 メジカルビュー社
授業方法	講義・演習。 必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験
履修上の 注意	演習を中心に実施していくため、実技着を着用すること。		

講義科目	運動学演習Ⅱ			
担当講師	亀田 秀一		授業時間数	30
開講年次	昼間コース	作業療法学科 1年後期	実務経験	身体障害者領域の病院で 実務経験あり
単位数	2			
教育目標	人体の骨、関節構造と運動の力源である筋肉について、知識を深めて人体の動きを3次元で考えられる基礎を作る。また、神経の走行・筋の支配神経について理解する。			
No.	講義計画	行動目標(学習目標)		
1	下肢上部総論	骨盤・大腿骨・脛骨腓骨上部の骨指標を理解する。		
2	骨盤・大腿骨・下腿骨上部の筋①	股関節の前面・後面の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。 必要な骨指標を確認する。		
3	骨盤・大腿骨・下腿骨上部の筋②	股関節の外転筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。 必要な骨指標を確認する。		
4	骨盤・大腿骨・下腿骨上部の筋③	股関節の外旋筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。 必要な骨指標を確認する。		
5	骨盤・大腿骨・下腿骨上部の筋④	股関節の内転筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。 必要な骨指標を確認する。		
6	骨盤・大腿骨・下腿骨上部の筋⑤	大腿前面及び後面の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。 必要な骨指標を確認する。		
7	下肢下部総論	下腿骨下部・足部の骨指標を理解する。		
8	下腿骨下部・足部の筋①	下腿前面の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。		
9	下腿骨下部・足部の筋②	下腿後面の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。		
10	下腿骨下部・足部の筋③	下腿後面及び外側の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。		
11	下肢筋の支配神経	神経の走行とその支配筋について理解する。		
12	下肢筋の整理	下肢筋の位置関係と各筋の作用、支配神経について整理する。		
13	頭部及び体幹総論	頭頸部の骨指標を理解する。 頭頸部前面の筋の走行と作用を理解する。		
14	体幹前面の筋	体幹前面の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。		
15	体幹後面の筋	体幹後面の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。		
教科書	書籍名		著者	出版社
	標準理学療法学・作業療法学 解剖学 基礎運動学		野村 巖 編 中村 隆一	医学書院 医歯薬出版
参考 図書等	プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系		坂井 建雄・村松 譲児	医学書院
	運動療法のための機能解剖学的触診技術(上肢) 運動療法のための機能解剖学的触診技術(下肢・体幹)		青木 隆明 青木 隆明	メジカルビュー社 メジカルビュー社
授業 方法	講義・演習。 必要に応じて遠隔授業を実施する。		成績評価 方法	定期試験にて評価する。
履修上 の注意	実技練習しやすい服装で臨むこと。			

講義科目	人間発達学					
担当講師	橋本 知美				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	作業療法学科 1年後期	実務経験	小児領域の病院での実務経験あり	単位数	2
教育目標	①身体、運動、認知、心理、社会性など各領域の正常な発達過程を理解する。 ②人間を生物学的存在としてでなく社会的存在としてとらえ、各段階の発達課題を理解する。 ③人間発達学を通じて幅広く豊かな人間観を身につける。					
No.	講義計画			行動目標(学習目標)		
1	人間発達総論			①発達の原則、臨界期、発達段階を説明できる。 ②エリクソン、ピアジェ、フロイトの発達理論を理解する。 ③発達の検査の目的、方法、種類を理解する。		
2	姿勢反射・反応			①原始反射、姿勢反射の意義を理解する。 ②反射中枢と出現・消失時期を理解する。 ③原始反射、姿勢反射の検査方法を理解する。		
3	胎児期の発達			①胎児の発達過程を理解する。 ②胎児期に出現する反射の確認を行う。		
4	新生児期の発達			①新生児期の運動発達を理解する。 ②主な疾患・障害(早産・低出生体重児)を理解する。		
5	乳幼児期の発達			①乳幼児期の運動発達を理解する。 ②主な疾患・障害(脳性麻痺)の概要を理解する。		
6	幼児期の発達			①幼児期の運動発達を理解する。 ②主な疾患・障害(自閉症スペクトラム障害、注意欠陥多動性障害)の概要を理解する。		
7	上肢機能の発達			①上肢機能の発達を理解する。 ②目と手の協調性の発達を理解する。		
8	ADLの発達1(食事・排泄・更衣)			①食事の発達を理解する。 ②排泄の発達を理解する。 ③更衣の発達を理解する。		
9	ADLの発達2(遊び)			①遊びの発達を理解する。		
10	感覚・知覚・認知の発達			①感覚・知覚・認知の発達を理解する。		
11	言語・社会性の発達			①言語の発達を理解する。 ②社会性の発達を理解する。		
12	学童期の発達			①身体、運動、認知、心理及び社会性の発達学的特徴を理解する。 ②発達学的課題を理解する。 ③人間発達における性差について理解する。		
13	青年期の発達			①身体、運動、認知、心理及び社会性の発達学的特徴を理解する。 ②発達学的課題を理解する。 ③人間発達における性差について理解する。		
14	成人・老年期の発達			①青年期の特徴を理解する。 ②我が国の高齢化の特徴及び老年期の発達学的特徴を理解する。 ③成人期・老年期の発達課題を理解する。 ④人間発達における性差について理解する。		
15	各期の発達のまとめ			胎児期から老年期まで生涯の発達についてまとめ、理解度に応じて補足を行う		
教科書	書籍名			著者		出版社
	イラストでわかる人間発達学			上杉 雅之 監修		医歯薬出版株式会社
参考図書等	リハビリテーションのための人間発達学 生涯人間発達論 標準理学療法学・作業療法学 人間発達学			大城 昌平 編 服部「祥子 岩崎 清隆		メディカルプレス 医学書院 医学書院
授業方法	講義および演習方式で授業を行う 必要に応じて遠隔授業を実施する			成績評価方法	定期試験	
履修上の注意	人間の発達を学ぶことは、広くヒトを捉える上で重要な基礎知識となる。また小児科学、子どもを対象とする理学療法・作業療法の評価学・治療学の基礎となる科目である。					



講義科目	リハビリテーション基礎医学 I				
担当講師	本田 芙紗子			授業時間数	30
開講年次	昼間コース	作業療法学科 1年前期	実務経験	身体障害者領域の病院・高齢者施設・在宅領域での実務経験あり	単位数
教育目標	理学療法士・作業療法士にとって、運動・活動は治療に必要不可欠である。本講義では、ヒトが運動・活動するために必要な栄養学を含めた諸要素の基礎、それらへの加齢・不活動の影響及び生活習慣病について学習し、運動の必要性を理解しつつ、実践するために必要な評価・リスク管理及び緊急時の対処方法について理解することを目標とする。				
No.	講義計画		行動目標(学習目標)		
1	オリエンテーション・総論		リハビリテーションが必要な疾患、加齢の影響を知り、栄養及び運動の必要性を理解する。また、運動に功罪があることを理解する。		
2	運動と筋		筋の収縮とATP産生について理解する。 ATP産生に必要な栄養素及び酸素について理解する。		
3	栄養学の基礎		3大栄養素の消化と吸収及びそれらの役割について理解する。		
4	運動と呼吸①		呼吸のメカニズムの基礎を理解する		
5	運動と呼吸②		運動時の呼吸変化およびそのメカニズムについて理解する		
6	運動と循環①		循環器のメカニズムの基礎を理解する		
7	運動と循環②		運動時の循環器の変化及びそのメカニズムについて理解する		
8	運動と神経		運動に必要な神経系のメカニズムの基礎を理解する		
9	運動とホルモン		運動に必要なホルモンの代表的なものを理解する		
10	運動と体温調節		体温の概要及び調節のメカニズムについて理解する		
11	体力の測定		体力の中でも特に、持久力の指標について理解する		
12	運動量の測定		運動量を測定する指標について理解し、計算ができるようになる		
13	加齢と廃用症候群、生活習慣等の影響と予防		加齢および廃用症候群、生活習慣等が体に及ぼす影響とその予防の基礎を理解する		
14	栄養療法の活用		主な病態に対する栄養療法を理解する		
15	運動時の生体反応とリスク管理、救急救命		運動時のバイタルサインの変化とそれに基づくリスク管理及び対処方法(救急救命)を理解する		
教科書	書籍名		著者		出版社
	入門運動生理学		勝田 茂		杏林書院
参考図書等	リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎		栢下淳 若林秀隆		医歯薬出版
	生化学・栄養学 生体のしくみ標準テキスト		内山 靖 編 高松 研		医歯薬出版 医学映像教育センター
授業方法	講義及びグループワークにて行う 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験	
履修上の注意	リハビリテーションを実施するうえで基礎となる科目です。積極的に講義に参加してください。				

講義科目	リハビリテーション基礎医学Ⅱ		
担当講師	新小文字病院 医療技術部	授業時間数	30
開講年次	昼間コース	作業療法学科 1年後期	単位数 2
教育目標	画像及び薬物に関する知識は、理学療法士・作業療法士として患者の病態を把握し、治療プログラムを作成する上で重要な基礎となる。また、医師など他の医療スタッフと共通の認識を持ち、コミュニケーションを図る上でも必要な知識である。そのため、画像及び薬物についての基礎を理解することを目標とする。		
No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	画像診断総論	レントゲン、CT及びMRI等画像の原理について理解する	
2	四肢の画像①	四肢における画像の位置関係を理解する	
3	四肢の画像②	四肢における画像の位置関係を理解する	
4	胸腹部の画像①	胸腹部における画像の位置関係を理解する	
5	胸腹部の画像②	胸腹部における画像の位置関係を理解する	
6	頭頸部の画像①	頭頸部における画像の位置関係を理解する	
7	頭頸部の画像②	頭頸部における画像の位置関係を理解する	
8	画像診断の活用方法	実際の症例を用いて画像診断の活用方法を体験する	
9	薬物療法総論	薬物療法、薬理作用と作用機序について理解する	
10	薬物の体内運命	薬物の吸収・分布・代謝・排泄、相互作用について理解する	
11	血圧に関与する薬物療法	血圧(特に降圧)に関与する薬物療法について理解する	
12	血栓に関する薬物療法	線溶系の薬物療法について理解する	
13	疼痛に関する薬物療法	鎮痛の薬物療法について理解する	
14	代謝に関する薬物療法	糖尿病に対する薬物療法について理解する	
15	薬物療法の活用方法	実際の症例を用いて薬物療法の活用方法を体験する。	
教科書	書籍名		著者
	リハビリテーション医療に活かす 画像のみかた リハペーシック 薬理学・臨床薬理学		水間正登 編集 内山靖・藤井浩美・立石雅子
参考図書等	解剖生理学		坂井建雄
			医学書院
授業方法	講義形式にて行う 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	リハビリテーションの実施時に必須の知識となります。自主的に学習を進めてください。		

講義科目	医学概論		
担当講師	新小文字病院医師 内部教員		授業時間数 30
開講年次	昼間コース	作業療法学科 1年前期	単位数 2
教育目標	医療倫理、健康と病気の概念、疾病の分類を学び、病気の診断と治療の概要を理解する。		
No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	医学の倫理	オリエンテーション、医の倫理と生命倫理 ヘルシンキ宣言、インフォームドコンセント	
2	医療の歴史	ヒポクラテスの時代から近代・現代までの医学の歴史	
3	健康・病気・医学の体系	健康とは、病気の理解と分類	
4	病気の原因	病理学とは、病気の原因	
5	病気による身体の変化①	血行障害による病変、進行性・退行性の変化、炎症	
6	病気による身体の変化②	腫瘍	
7	神経疾患について	神経疾患の病態生理	
8	運動器疾患について	運動器疾患の病態生理	
9	内部疾患について	内部疾患の病態生理	
10	病気の診断	診断の方法	
11	病気の治療	治療法の概要	
12	病気の予防	予防の原則、予防医学と衛生学、生活習慣病と一次予防	
13	医療システム	わが国の医療システムとその役割	
14	死の判定	ターミナルケア、尊厳死	
15	リハビリテーションとは	リハビリテーションの見方、考え方、その人らしさ	
教科書	書籍名		著者
	医学概論 リハビリテーションビジュアルブック		日野原 重明 稲川 利光 (編集)
参考 図書等	系統看護学講座23 小児看護学(2)小児臨床看護学各論		奈良間 美保
			医学書院
授業 方法	講義形式 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方 法	定期試験
履修上の 注意	医療人になるため、日頃から医療の倫理に関する報道や身近にある様々な疾病に興味を持つように心がけて下さい。		

講義科目	臨床心理学		
担当講師	吉村 仁		授業時間数 30
開講年次	昼間コース	作業療法学科 1年後期	単位数 2
教育目標	人間行動の基礎理論を学び、正常及び異常心理の評価と行動療法等の心理療法を理解する。		
No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	臨床心理学とは	①臨床心理学の定義を理解する。 ②臨床心理学の基本構造を理解する。 ③臨床心理学の成り立ちを理解する。	
2	臨床心理学の実践活動	①臨床心理学の実践活動の過程を理解する。 ②実践活動の3技能を理解する。 ③学派の成立と現在の代表的理論モデルの中心仮説を理解する。	
3	臨床心理学の基礎理論	①ナラティブアプローチの概要を理解する。 ②エンパワメントの概要を理解する。 ③ストレスモデルの概要を理解する。	
4	心を理解する:心理検査法①	①アセスメントの概要を理解する。 ②質問紙法と投映法の特徴と代表的な検査法を理解する。 ③認知検査の概念と代表的検査法を理解する。	
5	心を理解する:心理検査法②	①行動分析の基本的理論を理解する。 ②機能分析の方法を理解する。 ③異常心理の基準を理解する。	
6	ライフサイクルと心理問題①	①エリクソンの生涯発達理論を理解する。	
7	ライフサイクルと心理問題②	①乳幼児期から児童期の心理問題を理解する。 ②思春期の心理問題を理解する。	
8	ライフサイクルと心理問題③	①青年期の心理問題を理解する。 ②中年期の心理問題を理解する。 ③老年期の心理問題を理解する。	
9	ライフサイクルと心理問題④	①乳幼児期から老年期まで一連の心理問題を理解する。	
10	心理療法の理論モデル① 精神分析	①フロイトの「心の力学」を理解する。 ②防衛機制を理解する。 ③ユングの無意識に対する考え方を理解する。	
11	心理療法の理論モデル② 行動療法と認知行動療法	①行動療法と学習理論の考え方を理解する。 ②行動療法の技法を理解する。 ③行動療法から現在の認知行動療法への系譜を理解する。	
12	心理療法の理論モデル① 森田療法,内観療法,箱庭療法,夢分析	①森田療法の理論と方法を理解する。 ②内観療法、箱庭療法、夢分析の概要を理解する。	
13	心理療法の理論モデル① 自律訓練法,系統的脱感作法,集団療法	①自律訓練法の理論と効果を理解する。 ②系統的脱感作法の概要を理解する。 ③集団療法の定義とグループ・ダイナミクスを理解する。	
14	倫理療法の実際 クライアントの心理反応とセラピストの態度	①心理療法の実際の流れを理解する。 ②反動形成、転移などの心理反応を理解する。 ③セラピストの基本的態度を理解する。	
15	まとめ	学習の習熟度に合わせ補足	
教科書	書籍名		著者
	面白いほど良くわかる 臨床心理学		下山 晴彦 著
参考 図書等	よくわかる臨床心理学 公認心理師必携テキスト		出版社 西東社
			下山 晴彦 著 福島 哲夫
授業 方法	教科書に沿った講義および演習を行う 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の 注意	国家試験でも重要な科目であると共に、対人援助職にとって重要な知識であるので興味をもって授業に臨んで下さい。		

講義科目	精神医学		
担当講師	宇津 貴志	授業時間数	30
開講年次	昼間コース	作業療法学科 1年後期	単位数 2
教育目標	各疾患について疫学及び予後、病因と症状、検査及び治療を理解する。		
No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	精神医学とは何か	①精神医学の定義及び概念を理解する。 ②精神障害の成因と発症機序を理解する。 ③精神障害の分類を理解する。	
2	精神機能の障害と精神症状	①精神機能の種類と精神症状を理解する。 ②精神症状の特徴を理解する。 ③精神症状の生活への支障を理解する。	
3	精神障害の診断と評価	①精神障害の診断や評価の基本概念を理解する。 ②面接・観察・情報収集のポイントを理解する。 ③検査法や評価尺度を学ぶ。	
4	脳器質性精神障害	①器質性精神障害の概念を理解する。 ②代表的な認知症の症状、生活障害を理解する。 ③特徴的な脳器質性・症候性精神障害を学ぶ。	
5	アルコール関連精神障害	①依存症による精神障害の概念を理解する。 ②アルコール依存症の特性を理解する。 ③アルコール依存症の後遺障害、生活障害を学ぶ。	
6	薬物精神作用物質依存 てんかん	①依存物質・薬物の種類や特性を理解する。 ②精神依存・身体依存・耐性と依存物質の関係を学ぶ。 ③てんかんの発生機序、分類、症状などの特性を学ぶ。	
7	統合失調症及び関連の精神障害	①統合失調症の発生機序、病態、病型を理解する。 ②症状・障害を理解する。 ③治療の方針、経過、予後、生活への影響について学ぶ。	
8	統合失調症及び関連の精神障害	①統合失調症の病期、回復過程に応じた治療・リハビリテーションを学ぶ。 ②特徴的症狀の治療、経過を学ぶ。 ③生活支援、社会的予後を学ぶ。	
9	気分障害	①気分障害の概念、捉え方を理解する。 ②症状、障害、治療方針、回復過程、経過、予後を学ぶ。	
10	気分障害	①躁うつ病の発生機序、病態、病型を理解する。 ②症状、障害、治療方針、回復過程、経過、予後を学ぶ。 ③気分障害の生活への影響を学ぶ。	
11	神経症圏精神障害	①神経性障害の概念、捉え方を学ぶ。 ②不安、恐怖、強迫症とは何かを学ぶ。 ③ストレス関連障害について学ぶ。	
12	神経症圏精神障害	①摂食障害、身体表現性障害、心身症について学ぶ。 ②人格障害の概念、捉え方を理解する。 ③人格障害の特性を理解する。	
13	精神発達遅滞 心理的発達障害	①精神遅滞、ダウン症について理解する。 ②広汎性発達障害の特性を理解する。 ③行動障害について理解する。	
14	精神障害の治療とリハビリテーション	①精神障害への医学的・治療的捉え方、リハビリテーションを理解する。 ②生活支援、社会資源、法的背景などを学ぶ。 ③精神医学を総括的に理解する。	
15	まとめ	学習の習熟度に合わせ補足	
教科書	書籍名	著者	出版社
	学生のための精神医学	太田 保之	医歯薬出版
参考 図書等	標準理学療法学・作業療法学 精神医学	上野 武治 編	医学書院
	授業方法	成績評価方法	定期試験
履修上の 注意	各精神障害について、原因、発生機序、症状、検査、診断、治療、経過、予後、疾患特性などが結びつき、疾患単位で障害を理解できるような学習が必要。そのため予習復習など主体的に学習を行うことが大切である。		

講義科目		リハビリテーションと作業療法 I				
担当講師	橋本 知美			授業時間数	30	
開講年次	昼間コース	作業療法学科 1年前期	実務経験	在宅領域などでの実務経験あり	単位数	2
教育目標	①リハビリテーションの歴史的背景と語源、定義を理解し、医学的リハビリテーションの目的、対象者、実施過程と障害受容の過程を理解する ②ICFの誕生の背景と構成因子、作業療法との関係を説明できる ③作業療法の歴史と作業療法誕生に貢献した人物を理解し、現在の作業療法の定義と治療活動に関する概要を理解する					
No.	講義計画	行動目標(学習目標)				
1	リハビリテーションの歴史と概念及び関連する理念	①リハビリテーションの歴史的背景と語源を理解する ②リハビリテーションの定義と目的を説明できる ③リハビリテーションと関連するIL運動・ノーマライゼーション・QOLを理解する ④リハビリテーションの諸段階と目的を理解する。⑤リハビリテーションの諸領域を理解する				
2	障害の概念と我が国の社会保障制度	①健康・疾患・障害の概念を理解する ②我が国の社会保障制度を理解する				
3	障害とは何か	①障害受容の段階的な心理過程を理解する ②障害受容のリハビリテーションにおける意味と価値転換を理解する				
4	ICFの構成要素	①国際障害分類から国際生活機能分類への改定の背景を理解する ②ICFモデルの構成要素と各項目の関係を理解する ③ICFの生活機能と作業療法の関係性を理解する				
5	作業療法の意義と定義と作業活動の種類	①作業療法の歴史的背景を理解する ②作業療法の定義を理解する ③作業療法で用いられる作業活動の種類を説明できる				
6	作業療法の実施過程	①事例を通し作業療法の実施過程から対象者の変化をグループで話し合い理解する ②作業療法の回復段階に応じた治療活動の違いとその目的についてグループで話し合い理解する				
7	作業療法の実施過程	①事例を通し作業療法の実施過程から対象者の変化をグループで話し合い理解する ②作業療法の回復段階に応じた治療活動の違いとその目的についてグループで話し合い理解する				
8	作業療法の実施過程	①事例を通し作業療法の実施過程から対象者の変化をグループで話し合い理解する ②作業療法の回復段階に応じた治療活動の違いとその目的についてグループで話し合い理解する				
9	作業療法の対象と領域	①身体障害領域の作業療法士による臨床での仕事の内容と取り組みについて ②身体障害領域の作業療法臨床の実際から仕事のやりがい・魅力について講義を受ける ③身体障害領域での作業療法についてのイメージ・理解できたことをグループで話し合い発表する ④身体障害領域の作業療法の面白さ、興味を持ったことをグループで話し合い発表する				
10	作業療法の対象と領域	①精神障害領域の作業療法士による臨床での仕事の内容と取り組みについて ②精神障害領域の作業療法臨床の実際から仕事のやりがい・魅力について講義を受ける ③精神障害領域での作業療法についてのイメージ・理解できたことをグループで話し合い発表する ④精神障害領域の作業療法の面白さ、興味を持ったことをグループで話し合い発表する				
11	作業療法の対象と領域	①発達障害領域の作業療法士による臨床での仕事の内容と取り組みについて ②発達障害領域の作業療法臨床の実際から仕事のやりがい・魅力について講義を受ける ③発達障害領域での作業療法についてのイメージ・理解できたことをグループで話し合い発表する ④発達障害領域の作業療法の面白さ、興味を持ったことをグループで話し合い発表する				
12	作業療法の対象と領域	①老年期障害領域の作業療法士による臨床での仕事の内容と取り組みについて ②老年期障害領域の作業療法臨床の実際から仕事のやりがい・魅力について講義を受ける ③老年期障害領域での作業療法についてのイメージ・理解できたことをグループで話し合い発表する ④老年期障害領域の作業療法の面白さ、興味を持ったことをグループで話し合い発表する				
13	作業療法の対象と領域	①地域作業療法分野での作業療法のやりがい・魅力について講義を受ける ②地域作業療法における作業療法の役割と仕事の概要についてグループで話し合い発表する ③地域作業療法における作業療法のやりがい、面白さをグループで話し合い発表する				
14	作業療法の対象と領域	①各分野での講義をもとに作業療法士のやりがい、おもしろさをグループで話し合う ②作業療法士が患者さんのために常に何を考え援助しているか、どのようなことを目標に取り組んでいるかをグループで話し合う ③作業療法士が治療・援助として用いる活動がどのように対象のためになっているかをグループで話し合う ④作業療法士が治療・援助として用いる活動がどのように対象のためになっているかをグループで話し合う				
15	身分法、作業療法士に必要な資質と職業倫理、安全管理、個人情報の管理	①作業療法士の身分法と法的根拠について説明できる ②作業療法士に必要な資質と倫理について理解できる ③安全管理と感染対策の必要性と方法を理解する ④個人情報の管理の重要性を理解する				
教科書	書籍名		著者	出版社		
	ゴールドマスター改訂第2版 作業療法学概論 リハビリテーションビジュアルブック		長崎重信 監修 栗原トヨ子 里村恵子 監修: 落合慈之	MEDICAL VIEW 学研メディカル秀潤社		
参考図書等	公衆衛生がみえる 2022-2023 標準作業療法学 作業療法学概論 第3版		編集: 医療情報科学研究所 二木淑子(編)	MEDIC MEDIA 医学書院		
授業方法	講義・演習・グループワーク。 必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う			
履修上の注意	作業療法の大枠を学ぶ講義です。学んだことを自分なりにイメージして下さい					

講義科目	リハビリテーションと作業療法Ⅱ		
担当講師	二階堂 晴江		授業時間数 30
開講年次	昼間コース	作業療法学科 1年前期	実務経験 精神科・高齢者施設にて実務経験あり 単位数 2
教育目標	①地域包括ケアシステムを理解し、その中での作業療法士の役割を理解する。 ②リハビリテーションにかかわる多職種を知り、作業療法士との連携を理解する。 ③リハビリテーションにかかわる社会保障を知り、理解する。 ④救急救命に必要な知識を知る。		
No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	社会保障制度	保健医療福祉政策の動向について理解することができる	
2	地域包括ケアシステムとは	①地域リハビリテーションの歴史を学び、考え方や定義を説明できる ②地域リハビリテーションの範囲(地域の捉え方)を説明できる ③地域包括ケアの概念を知る	
3	地域包括ケアシステムとは	地域包括ケアシステムについてまとめることができる。	
4	地域包括ケアシステムとは	地域医療連携室とは何か。(外部講師)	
5	関連制度と関連法規	①医療保険制度について ②介護保険制度について ③わが国の障害者福祉制度の変遷について	
6	関連制度と関連法規	①自立支援給付 ②訓練等給付 ③地域生活支援事業(自立支援など)	
7	関連制度と関連法規	①地域における社会資源 ②特別支援教育 ③生活困窮者自立支援制度(就労支援など)	
8	関連制度と関連法規	介護保険制度とケアマネジメント(外部講師)	
9	多職種との連携	①医療機関で連携をしていく職種を知る。 ②医療機関で連携をしていく職種の役割を知る。	
10	多職種との連携	①地域リハビリテーション連携をしていく職種を知る。 ②地域リハビリテーション連携をしていく職種の役割を知る。	
11	多職種との連携	医療機関と地域リハビリテーションでの作業療法士の役割を知る。	
12	他職種との連携	まとめと発表	
13	救急救命について	BLS(AED)について	
14	救急救命について	BLSについて	
15	自然災害とボランティア活動	地震・津波災害の対策と災害ボランティア(グループワーク)	
教科書	書籍名		著者
	改訂第2版 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 作業療法学概論		長崎 重信・里村 恵子
参考図書等	地域包括リハビリテーション 実践マニュアル		編 河野 真
	作業療法学全書 改訂第3版 第1巻 作業療法概論		編集 杉原 素子
授業方法	講義・演習・グループワーク。 必要に応じて遠隔授業を実施する。		成績評価方法 定期試験、提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う
	履修上の注意		
作業療法の大枠を学ぶ講義です。学んだことを自分なりにイメージして下さい			

## Ⅲ. 作業療法学科専門分野



講義科目	基礎作業学 I		
担当講師	諫山 歩		授業時間数 30
開講年次	昼間コース	作業療法学科 1年前期	実務経験 精神科・高齢者施設にて実務経験あり 単位数 2
教育目標	①作業療法における作業の意味・特性を理解し、作業療法における治療的効果の概要を理解する ②日頃私たちが行っている作業は、どのような能力を使って遂行されているのか、どのような生物学的・心理社会的・文化的意味があるかを意識する		
No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	作業とは	①作業療法での作業の意味を理解する	
2	作業の分類・構成要素1	①生活の中のいろいろな作業を挙げることができる。 ②作業を分類できる	
3	作業の分類・構成要素2	①作業の構成要素が理解できる。	
4	作業の主観的意味1	①生産的作業とはどのようなものか理解する ②楽しい作業とはどのようなものか理解する ③休息になる作業とはどのようなものか理解する	
5	作業の主観的意味2	①作業バランスについて理解する ②作業バランスについて自己の生活をもとに分析し、対象者の作業をバランスという観点から理解することの必要性を知る。	
6	作業の文脈1	①還元主義について説明出来る ②アフォーダンスについて、例を挙げて説明出来る ③空間的側面についての概要を知る	
7	作業の文脈2	①エティックとエミックについて例を挙げて説明出来る ②対象者理解の視点として人の役割について理解出来る	
8	作業による成長と回復1 (作業を通じた回復の視点)	①医学的視点での患者理解と作業的視点の違いについて理解する	
9	作業による成長と回復2 (作業を通じた回復の視点)	①医学的視点での患者理解と作業的視点の違いについて理解する	
10	作業遂行に関する包括的理解	①カナダ作業モデル・人間作業モデルの概念を知る	
11	作業遂行に関する包括的理解	①生活向上マネジメントの視点を知る	
12	作業遂行に関する包括的理解	①生活向上マネジメントの視点を知る	
13	作業に関する身体的理解	①人の作業を知るために、身体構造、脳機能、動作を理解する必要性を知る	
14	作業に関する精神的理解	①人の作業を知るために、精神機能、こころを理解する必要性を知る	
15	対人関係と作業活動	①人の作業を知るために、人と関わること(コミュニケーション)を理解する必要性を知る	
教科書	書籍名		著者
	作業って何だろう 作業療法学全書 改訂第3版 基礎作業学 OTマニュアル 66 生活行為向上マネジメント		吉川ひろみ 日本作業療法士協会 監修 日本作業療法士協会
参考 図書等	標準作業療法学 専門分野 基礎作業学		濱口豊太(編) 医学書院
	出版社		医歯薬出版 協同医書出版社 中央法規出版
授業 方法	講義・演習・グループワーク。 必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取組み方を総合的に判断し、評価を行う
履修上の 注意	講義の聴講で完結するのではなく、ひとが作業を行うときどのような能力をどのような処理過程を経て使用しているか、自ら思考し、自己の体験との結びつけができるよう取り組むこと		

講義科目		基礎作業学Ⅱ					
担当講師		諫山 歩		授業時間数	60		
開講年次		昼間コース 作業療法学科 1年後期	実務経験	精神科・高齢者施設にて実務経験あり	単位数	2	
①作業療法における重要な視点を具体的な作業を通して学ぶ ②各種モデルの概念・評価について理解を深め、作業療法が作業活動を媒介とした様々な対象者への治療・指導・援助技術であることを理解し、具体的に適用する方法を学ぶ							
No.	講義計画	行動目標(学習目標)		No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	作業の知1	作業の持つ意味性・目的性・具体性・投影性について、説明できる		16	包括的作業分析とその例	目地を入れ、タイルモザイクを完成させることができる	
2	作業の知2	ひとが作業をする際におきる能動性・身体性・操作性・没我性について、説明できる		17	包括的作業分析とその例	タイルモザイクの包括的作業分析ができる	
3	作業の知3	ともに作業することでおきる共有性について説明できる		18	分析結果と治療への応用	作業提供の工夫で段階づけができる	
4	作業の治療的意義	作業を治療に使用するために必要なことがわかる		19	分析結果と治療への応用	分析結果をもとに、適応となる対象者を考えることができる	
5	作業分析とは	作業分析の目的がわかる 作業分析の種類を知る		20	分析結果と治療への応用	分析結果をもとに、適応となる対象者を考えることができる	
6	包括的作業分析とその例	包括的作業分析の目的がわかる 分析項目及びその視点を知る		21	個人と集団	個人作業と集団作業の特徴と効果を知る	
7	包括的作業分析とその例	革細工の工程を知る。 カービング・スタンピングを経験する		22	集団作業療法	レクリエーション活動における作業療法の意義がわかる	
8	包括的作業分析とその例	染色を経験する		23	集団作業療法	レクリエーションの基本概念が言える レクリエーション実施上の要点が言える	
9	包括的作業分析とその例	レーシングを経験する		24	集団での作業活動を企画する 演習1	対象に合わせたレクリエーションを 考えることができる	
10	包括的作業分析とその例	革細工の包括的作業分析ができる		25	集団での作業活動を企画する 演習2	対象に合わせたレクリエーションを 考えることができる	
11	分析結果と治療への応用	作業提供の工夫で段階づけができる		26	集団での作業活動を企画する 演習3	レクリエーションを実施することができる	
12	分析結果と治療への応用	分析結果をもとに、適応となる対象者を考えることができる		27	集団での作業活動を企画する 演習4	レクリエーションを実施することができる	
13	分析結果と治療への応用	分析結果をもとに、適応となる対象者を考えることができる		28	集団での作業活動を企画する 演習5	レクリエーションを実施することができる	
14	包括的作業分析とその例	タイルモザイクの工程を知る。 タイルの仮置きとデザインを決定する		29	集団活動体験後の振り返り	レクリエーションの効果が言える	
15	包括的作業分析とその例	タイルをカットし、貼り付けていく		30	まとめ	受講内容を整理し理解することができる	
教科書	書籍名		著者		出版社		
	作業活動実習マニュアル ひとと作業・作業活動		古川 宏 山根 寛		医歯薬出版 三輪書店		
参考図書等	レクリエーション		寺山 久美子		三輪書店		
授業方法	講義・演習・グループワーク。 必要に応じて遠隔授業を実施する。		成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取組み方を総合的に判断し、評価を行う			
履修上の注意	作業を遂行・経験して、分析的な視点での考察を行う また、作業が身体的要素のみならず、精神的・心理的要素からも成り立つことや、対象者別、目的別に多岐にわたることを知る 治療的応用の際にどのように分析の結果を活用し、手順を踏むかを知る※作業内容に関しては、一例を示しているため、実際の作業内容は異なる場合があります						

講義科目		基礎評価学演習 I				
担当講師		本田 美紗子	桑原 健志	授業時間数	60	
開講年次		昼間コース 作業療法学科 1年前期	実務経験	身体障害者領域の病院・高齢者施設・在宅領域での実務経験あり	単位数	2
教育目標 ①作業療法評価の概要を理解し、基本的評価の技術・態度を身に付ける ②バイタルサイン、形態計測、関節可動域測定法についての基本的技術を獲得する						
No.	講義計画	行動目標(学習目標)	No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	オリエンテーション/評価の基礎	①学習の進め方について理解できる ②リハビリテーション医療における評価の意味を説明できる	16	関節可動域 (ROM) 検査	上肢 肩甲帯、肩関節の関節可動域を手順・注意点を守り測定できる(実技)	
2	意識障害・全身状態の評価	①検査の目的・対象者・検査項目を説明できる	17	関節可動域 (ROM) 検査	上肢 肘関節、前腕、手関節の関節可動域を手順・注意点を守り測定できる(実技)	
3	意識障害・全身状態の評価	①バイタルサインと意義を説明できる	18	関節可動域 (ROM) 検査	上肢 肘関節、前腕、手関節の関節可動域を手順・注意点を守り測定できる(実技)	
4	意識障害・全身状態の評価	①血圧、脈拍の測定を実施できる ②血圧計の取り扱い手順がわかる	19	関節可動域 (ROM) 検査	下肢 股関節 の関節可動域を手順・注意点を守り測定できる(実技)	
5	意識障害・全身状態の評価	①血圧、脈拍の測定を実施し、計測の注意と結果の判断基準を言える	20	関節可動域 (ROM) 検査	下肢 股関節 の関節可動域を手順・注意点を守り測定できる(実技)	
6	姿勢・形態計測	①姿勢の評価を説明できる ②体位と構えを説明できる	21	関節可動域 (ROM) 検査	下肢 膝・足関節の関節可動域を手順・注意点を守り測定できる(実技)	
7	姿勢・形態計測	①形態計測の目的が言える ②ランドマークの触診ができる	22	関節可動域 (ROM) 検査	下肢 膝・足関節の関節可動域を手順・注意点を守り測定できる(実技)	
8	姿勢・形態計測	①周径の測定を実施できる	23	関節可動域 (ROM) 検査	頸部・体幹、手指の関節可動域を手順・注意点を守り測定できる(実技)	
9	姿勢・形態計測	①四肢長の測定を実施できる	24	関節可動域 (ROM) 検査	頸部・体幹、手指の関節可動域を手順・注意点を守り測定できる(実技)	
10	姿勢・形態計測	①その他の測定を実施できる	25	関節可動域 (ROM) 検査	頸部・体幹、手指の関節可動域を手順・注意点を守り測定できる(実技)	
11	中間まとめ	2～10回のポイントを説明できる	26	評価の基礎	①評価過程について説明できる	
12	関節可動域 (ROM) 検査	①正常な関節可動域と異常な関節可動域の定義を説明できる ②関節の構造を説明できる	27	評価の基礎	①ICFモデルを用いて評価結果をあらわすことができる	
13	関節可動域 (ROM) 検査	①関節可動域における最終域感・関節可動域制限とその原因を説明できる	28	評価の基礎	①観察②検査・測定③統合と解釈④問題点の抽出とは何か説明できる	
14	関節可動域 (ROM) 検査	①関節可動域検査の手順を説明できる②面と軸、運動方向を説明できる	29	評価の基礎	⑤目標及び治療計画の設定⑥治療プログラムの立案⑦記録とは何か説明できる	
15	関節可動域 (ROM) 検査	上肢 肩甲帯、肩関節の関節可動域を手順・注意点を守り測定できる(実技)	30	まとめ	復習と各回のポイントを説明できる	
教科書	書籍名		著者		出版社	
	リハビリテーション基礎評価学		潮見 泰茂, 下田 信明 編集		羊土社	
参考図書等	標準理学療法学・作業療法学 解剖学 基礎運動学		野村 巖 編 中村隆一 著		医学書院 医歯薬出版	
	授業方法	講義・演習・グループワーク。必要に応じて遠隔授	成績評価方法	定期試験にて評価する。		
履修上の注意	評価の目的と意義を理解し、対象者への基本的態度・身だしなみ、基本技術を習得するよう履修してください 運動学や解剖学との関連を考えながら学ぶこと。実技は身に付くまで練習すること					

講義科目	基礎評価学演習Ⅱ				
担当講師	本田 美紗子 桑原 健志		授業時間数	60	
開講年次	昼間コース	作業療法学科 1年後期	実務経験	身体障害者領域の病院・高齢者施設・在宅領域での実務経験あり	
単位数				2	
教育目標	①各種の検査・測定の方法と概要を他者に説明できる ②各種の検査・測定の手順を学生同士で再現できる ③各種の検査・測定の実施上の留意点を述べるができる ④各種の検査・測定の結果を文書・口頭で説明できる				
No.	講義計画	行動目標(学習目標)	No.	講義計画	行動目標(学習目標)
1	知覚検査	感覚と知覚の違い、感覚の伝導路を説明できる	16	筋力検査	徒手筋力検査法に沿って検査を実施できる(実技)肩関節
2	知覚検査	表在感覚障害の検査方法に沿って実際の検査ができる(実技)	17	筋力検査	徒手筋力検査法に沿って検査を実施できる(実技)肩関節
3	知覚検査	表在感覚障害の検査方法に沿って実際の検査ができる(実技)	18	筋力検査	徒手筋力検査法に沿って検査を実施できる(実技)肩関節
4	知覚検査	深部感覚障害の検査方法に沿って実際の検査ができる(実技)	19	筋力検査	徒手筋力検査法に沿って検査を実施できる(実技)肘関節 前腕
5	知覚検査	複合感覚障害の検査方法に沿って実際の検査ができる(実技)	20	筋力検査	徒手筋力検査法に沿って検査を実施できる(実技)肘関節 前腕
6	知覚検査	ハンドセラピー領域の知覚検査の方法に沿って実際の検査ができる(実技)	21	筋力検査	徒手筋力検査法に沿って検査を実施できる(実技)手関節 手指
7	知覚検査	知覚検査について、解剖生理・検査の意義・対象となる疾患を説明できる	22	筋力検査	徒手筋力検査法に沿って検査を実施できる(実技)頸部・体幹
8	疼痛の評価	疼痛とは何か、検査の意義や手順を説明できる 痛みの臨床的評価尺度について	23	筋力検査	徒手筋力検査法に沿って検査を実施できる(実技)頸部・体幹
9	筋力検査	筋力とは何か、解剖生理・検査の意義について説明できる	24	筋力検査	機器を利用した粗大筋力の計測 握力・ピンチ力の計測(ハンドセラピー領域の検査法)を実施できる
10	筋力検査	徒手筋力検査法の検査方法のルールを知る	25	筋力検査	筋力検査法について説明できる 代償動作について説明できる
11	筋力検査	徒手筋力検査法に沿って検査を実施できる(実技)股関節	26	脳神経検査	脳神経の機能と働きを説明でき、感覚系 脳神経検査を手順・注意に沿って実施できる(実技)
12	筋力検査	徒手筋力検査法に沿って検査を実施できる(実技)股関節	27	脳神経検査	運動系 脳神経検査を手順・注意に沿って実施できる(実技)
13	筋力検査	徒手筋力検査法に沿って検査を実施できる(実技)股関節	28	上肢機能検査	上肢機能検査を手順・注意に沿って実施できる(実技)
14	筋力検査	徒手筋力検査法に沿って検査を実施できる(実技)股関節	29	上肢機能検査	上肢機能検査を手順・注意に沿って実施できる(実技)
15	筋力検査	徒手筋力検査法に沿って検査を実施できる(実技)足関節	30	まとめ	各回で習得した内容を説明し、実施できる
教科書	書籍名		著者		出版社
	リハビリテーション基礎評価学 新・徒手筋力検査法 病気が見えるVol.7 脳・神経		潮見 泰茂, 下田 信明 編集 津山直一・中村耕三 訳 医療情報科学研究所		羊土社 協同医書出版社 メディックメディア
参考図書等	適宜紹介				
授業方法	講義・演習・グループワーク。 必要に応じて遠隔授業を実施する。		成績評価方法	定期試験にて評価する。	
履修上の注意	服装・身だしなみは学外実習に準ずる。知覚の伝導路と、脳神経に関する解剖学・生理学・運動学の基礎知識を授業前に確認しておく。自宅で毎回の授業の復習をするとともに正確に検査を行えるように何度も実技練習を行うこと 障害に関連する疾患について自己学習を行い理解を深めるよう努めること				

講義科目		臨床評価学演習 I		
担当講師	本田 美紗子		桑原 健志	
開講年次	昼間コース	作業療法学科 1年前期	実務経験	身体障害者領域の病院・高齢者施設・在宅領域での実務経験あり
授業時間数				30
単位数				1
教育目標	① 対象者に検査の説明を行い安全に検査を施行できる ② 対象者の状況に合わせた検査の方法を考え、練習に取り組むことができる ③ 検査器具・記録用紙などの準備・片付け、管理を行える ④ 基礎評価学演習で学修した検査測定について、健常者に施行できるレベルの技術を習得する			
No.	講義計画	行動目標(学習目標)		
1	オリエンテーション	評価における検査測定の意義を理解し、説明できる 検査測定に必要な準備や練習方法を具体的に説明できる		
2	学生としての基本的な態度	実際の場面を想定し、それぞれについて適切な内容・方法が実践できる ～身だしなみ、挨拶と自己紹介、対象者との距離や話しかけ方、環境の設定・準備～		
3	検査の目的と対象者への説明	検査の目的を理解したうえで対象者に説明を行うことができる 検査時のリスク、対象者の身体の触り方、検査の肢位などの注意点を具体的に挙げ、確認することができる		
4	検査:バイタルサイン (実技練習)	実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認し実践できる:バイタルサイン(脈拍・血圧測定の方法、検査器具の使用法、記録の実際)		
5	検査:バイタルサイン (実技テスト)	対象者にバイタルサインの確認(脈拍・血圧測定)を行うことができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
6	検査:バイタルサイン (実技テスト)	対象者にバイタルサインの確認(脈拍・血圧測定)を行うことができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
7	検査:形態計測 (実技練習)	実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認し実践できる:形態計測(四肢長と周径の計測方法、検査器具の取り扱いと記録の実際)		
8	検査:形態計測 (実技テスト)	対象者に形態計測(四肢長と周径の計測)を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
9	検査:形態計測 (実技テスト)	対象者に形態計測(四肢長と周径の計測)を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
10	検査:形態計測 (実技テスト)	対象者に形態計測(四肢長と周径の計測)を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
11	検査:関節可動域測定:上肢 (実技練習)	実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認し実践できる:関節可動域測定(上肢の各関節の計測、検査器具の取り扱いと記録の実際)		
12	検査:関節可動域測定 (実技テスト)	対象者に関節可動域測定(上肢)を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
13	検査:関節可動域測定 (実技テスト)	対象者に関節可動域測定(上肢)を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
14	検査:関節可動域測定 (実技テスト)	対象者に関節可動域測定(上肢)を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
15	まとめ	それぞれの検査におけるチェックポイントを理解し、自己の課題を明らかにすることができる 継続的に実技練習への取り組みを行うよう意識することができる		
教科書	書籍名	著者	出版社	
	リハビリテーション基礎評価学	編集 潮見泰蔵	羊土社	
参考図書等	臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 PTOTのための評価測定 形態計測・感覚検査・反射検査 PTOTのための評価測定 ROM測定	監修 才藤栄一 監修 福田 修 監修 福田 修	金原出版株式会社 三輪書店 三輪書店	
授業方法	演習・グループワーク。 必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	実技試験(30%)、提出課題(30%)、学修態度(40%)を総合的に判断し、評価を行う	
履修上の注意	安全に配慮し、対象者に最小限の負担となるよう検査・測定を行うための手順と必要な基礎知識を実技を交え学ぶ。授業時間内で検査技術の修得と実技テストの合格を目標とします。技術の習得のみならず、望ましい態度を身につけるよう学ぶ。			

講義科目	臨床評価学演習Ⅱ			
担当講師	本田 美紗子	桑原 健志	授業時間数	30
開講年次	昼間コース	作業療法学科 1年後期	実務経験	身体障害者領域の病院・高齢者施設・在宅領域での実務経験あり
教育目標	① 対象者に検査の説明を行い安全に検査を施行できる ② 対象者の状況に合わせた検査の方法を考え、練習に取り組むことができる ③ 検査器具・記録用紙などの準備・片付け、管理を行える ④ 基礎評価学演習で学修した検査測定について、健常者に施行できるレベルの技術を習得する			
No.	講義計画	行動目標(学習目標)		
1	検査:関節可動域測定:下肢 (実技練習)	実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認できる:関節可動域測定(下肢の各関節の計測、検査器具の取り扱いと記録の実際)		
2	検査:関節可動域測定 (実技テスト)	対象者に関節可動域測定(下肢)を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
3	検査:関節可動域測定 (実技テスト)	対象者に関節可動域測定(下肢)を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
4	検査:関節可動域測定 (実技テスト)	対象者に関節可動域測定(下肢)を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
5	検査:関節可動域測定:手指 (実技練習)	実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認できる:関節可動域測定(手指・肩甲帯の各関節の計測、検査器具の取り扱いと記録の実際)		
6	検査:関節可動域測定 (実技テスト)	対象者に関節可動域測定(手指・肩甲帯)を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
7	検査:関節可動域測定 (実技テスト)	対象者に関節可動域測定(手指・肩甲帯)を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
8	検査:MMT:下肢・体幹 (実技練習)	実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認できる:徒手筋力検査法(下肢・頸部・体幹の計測、記録の実際)		
9	検査:MMT (実技テスト)	対象者に徒手筋力検査法(下肢・頸部・体幹)を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
10	検査:MMT (実技テスト)	対象者に徒手筋力検査法(下肢・頸部・体幹)を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
11	検査:MMT:上肢・手指 (実技練習)	実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認できる:徒手筋力検査法(上肢・手指の計測、記録の実際)		
12	検査:MMT (実技テスト)	対象者に徒手筋力検査法(上肢・手指)を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
13	検査:MMT (実技テスト)	対象者に徒手筋力検査法(上肢・手指)を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
14	検査:MMT (実技テスト)	対象者に徒手筋力検査法(上肢・手指)を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
15	まとめ	それぞれの検査におけるチェックポイントを理解し、自己の課題を明らかにすることができる 継続的に実技練習への取り組みを行うよう意識することができる		
教科書	書籍名		著者	出版社
	リハビリテーション基礎評価学 新・徒手筋力検査法		編集 潮見泰蔵 訳 津山直一・中村耕三	羊土社 協同医書出版社
参考図書等	臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 PTOTのための評価測定3 MMT PTOTのための評価測定4 MMT		監修 才藤栄一 監修 伊藤俊一 監修 伊藤俊一	金原出版株式会社 三輪書店 三輪書店
	授業方法	演習・グループワーク。 必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	実技試験(40%)、提出課題(40%)、学修態度(20%)を総合的に判断し、評価を行う
履修上の注意	安全に配慮し、対象者に最小限の負担となるよう検査・測定を行うための手順と必要な基礎知識を実技を交え学ぶ。授業時間内で検査技術の修得と実技テストの合格を目標とします。技術の習得のみならず、望ましい態度を身につけるよう学ぶ。			

講義科目	日常生活活動学演習 I		
担当講師	二階堂 晴江		授業時間数 30
開講年次	昼間コース 作業療法学科 1年後期	実務経験	精神科・高齢者施設にて実務経験あり 単位数 1
教育目標	①リハビリテーションにおける日常生活の概念・範囲・意義を理解する ②基本動作と身の回り活動の身体運動の特徴を演習体験をもとに運動学的視点、解剖学的に理解する ③演習にて実際のIADLを体験し、観察・分析・記録し理解を深める		
No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	ADLの概念とリハビリテーション	①ADLの概念について説明できる②リハビリテーションにおける目標とADLの関係を説明できる③ADLの範囲と用語の違いを説明できる	
2	ADLとICF、QOLの関係	①「しているADL」と「できるADL」の違いを説明できる②リハビリテーションにおけるQOLの重要性を説明できる③QOLの向上とADLの自立との関係性を説明できる	
3	ADLの種類と動作観察	①ADLの種類(基本動作、身の回り活動等)について説明できる②動作観察の重要性と基本的な視点を説明できる③基本動作の一部について観察を体験する	
4	基本動作について(静的)	静的基本動作を分類し、セルフケアとの関連性を理解できる	
5	基本動作について(動的)	動的基本動作を分類し、セルフケアとの関連性を理解できる	
6	基本動作の動作観察体験	立ち上がり動作を観察、分析し記録できる	
7	セルフケア:食事活動	食事活動の身体活動の特徴や意義について理解できる	
8	セルフケア:整容活動	整容活動の身体活動の特徴や意義について理解できる	
9	セルフケア:更衣活動	更衣活動の身体活動の特徴や意義について理解できる	
10	セルフケア:排泄活動	排泄活動の身体活動の特徴や意義について理解できる	
11	セルフケア:入浴活動	入浴活動の身体活動の特徴や意義について理解できる	
12	セルフケアのまとめと作業療法	セルフケアの各活動の特徴と違いについて理解できる	
13	IADL体験	IADLの身体活動の特徴や意義について体験を通し理解できる	
14	IADL体験	IADLの身体活動の特徴や意義について体験を通し理解できる	
15	IADL体験	IADLの身体活動の特徴や意義について発表を通し理解を深める	
教科書	書籍名	著者	出版社
	理学療法学テキストV 日常生活活動 リハビリテーション基礎評価学	千住 秀明 潮見泰藏, 下田信明/編	神陵文庫 羊土社
参考 図書等	作業療法学全書 改訂第3版 日常生活活動 PT・OTビジュアルテキスト 姿勢・動作・歩行分析	酒井ひとみ 編集 臨床歩行分析研究会/監	協同医書出版社 羊土社
授業 方法	講義・演習・グループワーク。 必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価 方法	定期試験にて評価する。
履修上 の注意	自分自身の日常生活での身体活動を体験をもとに再確認し、運動学、解剖学の知識をもとに理解する		

講義科目	義肢学		
担当講師	橋本 知美		授業時間数 30
開講年次	昼間コース 作業療法学科 1年後期	実務経験	身体障害者領域の病院で実務経験あり 単位数 1
教育目標	①切断のリハビリテーションの実践を理解する ②義手の構造を理解し、義手訓練及び適合判定を実践できる		
No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	義肢総論	① 義肢の定義を説明できる ② 切断の原因と動向を説明できる ③ 切断術の原則を説明できる	
2	切断者のリハビリテーション	① 切断術前後の評価方法を説明できる ② 切断術後の断端管理について説明できる ③ 切断術後の合併症について説明できる	
3	義手各論①	① 義手の分類を説明できる ② 義手の構成要素と機能を説明できる	
4	義手各論②	① 義手の部品とそれらの機能について説明できる(手先具～肘継手)	
5	義手各論③	① 義手の部品とそれらの機能について説明できる(肩継手～ハーネス)	
6	前腕義手について	① 前腕切断の部位分類と残存機能を説明できる ② 前腕義手の構成要素と機能を説明できる	
7	前腕義手の適合判定について	① 前腕義手の適合判定方法を説明できる ② 不具合の原因と修正方法を説明できる	
8	上腕義手について	① 上腕切断の部位分類と残存機能を説明できる ② 上腕義手の構成要素と機能を説明できる	
9	上腕義手の適合判定について	① 上腕義手の適合判定方法を説明できる ② 不具合の原因と修正方法を説明できる	
10	義手のリハビリテーション	① 義手装着前訓練のポイントを説明できる ② 義手装着訓練のポイントを説明できる	
11	義手のリハビリテーション	① 実際に義手の装着についての手順を説明できる(実技) ② 義手装着、チェックアウトができる(実技)	
12	筋電義手について	① 筋電義手とは何か説明できる ② 筋電義手の構成を説明できる ③ 筋電義手の制御システムを説明できる	
13	下肢切断について下肢切断の分類とリハビリテーション	① 下肢切断の部位分類を説明できる ② 下肢切断部位による残存機能を説明できる	
14	大腿義足と下腿義足について	① 大腿義足の分類と構成要素・機能を説明できる ② 下腿義足の分類と構成要素・機能を説明できる	
15	義手・義足のまとめ	① 国家試験問題を通してポイントを整理できる	
教科書	書籍名	著者	出版社
	義肢装具学	川村次郎 他	医学書院
参考図書等	義肢装具学(標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻)	佐伯 寛 他	医学書院
	作業療法学全書 改訂第3版 義肢装具学 切断と義肢 義肢装具のチェックポイント	古川宏 他 澤村誠志 著 伊藤利之 他	協同医書出版社 医歯薬出版 医学書院
授業方法	講義・演習・グループワーク。 必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験にて評価する。
履修上の注意	国家試験において必ず出題される義手の構造を理解し、動作の仕組みを理解して下さい		



## IV. 臨床実習

講義科目	臨床実習 I (病院見学実習)		
担当講師	1年生担任		授業時間数 45
開講年次	昼間コース	作業療法学科 1年後期	単位数 1
教育目標	①チーム医療における理学療法士・作業療法士の役割を理解する。 ②代表的な疾患の症状や現象を観察する。 ③代表的な疾患に対する評価や治療を観察する。		
No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
<b>【見学の概要】</b> チーム医療について学び、リハビリテーションの専門職としての知識・技術の重要性・必要性を確認することで、病院で働く理学療法士・作業療法士の仕事や役割について理解し、職業人として望ましい行動や態度を取ることができるように注意して行動する。この経験によって、自身の将来像を具体化し、課題の再確認と動機を高めることを期待する。			
教育目標①「チーム医療における理学療法士・作業療法士の役割を理解する。」に対する行動目標 (認知領域) チーム医療について理解する。 (認知領域) チーム医療における理学療法士・作業療法士の立場と役割を理解する。 (認知領域) チーム医療における他専門職の立場と役割を理解する。 (認知領域) 病院で働く理学療法士・作業療法士の1日の仕事の流れを理解する。 (運動領域) 対象者との関係性構築に務める。			
教育目標②「代表的な疾患の症状や現象を観察する。」に対する行動目標 (情意領域) 実習生として相応しい身だしなみを整えることができる。 (情意領域) 医療従事者として自覚を持ち、患者に対し相応しい態度や対応がとれる。 (情意領域) 状況に即した言動を取ることができる。 (認知領域) 代表的な疾患の症状・現象について見学し、自分の考えを他者に伝える。 (運動領域) 必要に応じてメモに書き留めることができる。			
教育目標③「代表的な疾患に対する評価や治療を観察する。」に対する行動目標 (情意領域) 実習生として相応しい身だしなみを整えることができる。 (情意領域) 医療従事者として自覚を持ち、患者に対し相応しい態度や対応がとれる。 (情意領域) 状況に即した言動を取ることができる。 (認知領域) 代表的な疾患に対する評価や治療を見学して、自身の考えを他者に伝える。 (認知領域) 理学療法及び作業療法の一連の流れを理解する。 (運動領域) 必要に応じてメモを書き留めることができる。			
教科書	書籍名 特に指定しない	著者	出版社
参考 図書等	標準作業療法学 臨床実習とケーススタディ	濱口 豊太 編集	医学書院
授業 方法	学内実習及び施設実習	成績評価方法	個人評定表を用いて学内取り組み及び施設実習を総合的に評価
履修上の 注意	目的を明確にして、自主性をもって取り組むこと。		